

特集

宇宙飛行士

山崎直子さんとめぐる 2014年宇宙絵本の旅



山崎 直子
やまざき・なおこ

千葉県松戸市生まれ。東京大学工学部航空学科卒業。同大学院航空宇宙工学専攻修士課程を修了後、宇宙開発事業団（現JAXA）に勤務。日本人2人目の女性宇宙飛行士。2010年スペースシャトル「ディスカバリー号」に搭乗。現在はJAXAを退職し、2012年より内閣府宇宙政策委員会委員。

大きくなったら宇宙飛行士になりたい！ 宇宙人っていると思う？ 宇宙旅行ができるようになるのかなあ。子どもたちの宇宙への興味はつきません。これからの時季は、星空観察にもぴったり。夏休みのおはなし会で紹介しても楽しい宇宙絵本の世界を、宇宙飛行士の山崎直子さんと一緒にめぐりましょう。

著作権保護コンテンツ



『COSMOS』上下巻

著／カール・セーガン 訳／木村 繁
各1,600円（朝日新聞出版）

星の成り立ちと科学の使命を説き、累計116万部を突破したミリオンセラーが完全復刊。山崎直子さんの書きおろしエッセイ「人類の故郷、宇宙への思い」や、科学ジャーナリスト内村直之さんの解説も収録。

読み
70分

宇宙飛行士
山崎直子さんとめぐる
2014年宇宙絵本の旅

宇宙のことを
もっと知りたい

from Naoko Yamazaki

小学校高学年から中学生のときにかけて、大いに影響を受け、宇宙への夢を抱かせてくれたのが、80年代の名著『COSMOS』でした。著者はボイジャーの惑星探査機も指導していた研究者のカール・セーガンさん。天動説から地動説に変わる話やいろいろな歴史、宇宙の話とそれに関わる人の物語や伝記的な部分もあり、とても読みごたえがあると思います。しばらく絶版になっていましたが、復刊するにあたって、私もエッセイを寄せさせていただきました。



『宇宙はなぜこんなにうまくできているのか』

著／村山 斉
1,100円（集英社インターナショナル）

万有引力やケプラーの法則、太陽はなぜ燃え続けていられるかなど、宇宙の仕組みや起源、暗黒物質のことまでわかりやすく説明しています。宇宙論や物理学の入門にぴったり。中学生・高校生以上向け。

読み
70分



『宇宙たんけんたい 国際宇宙ステーション』

文／フランクリン・M・ブランリー
絵／トゥルー・ケリー 前書き／スコット・カーペンター
日本語監修／的川 泰宣 訳／神鳥 統夫
品切れ重版未定（小峰書店）

国際宇宙ステーションでは、どんな実験をして、宇宙飛行士たちはどんなふうに過ごしているのでしょうか。2005年に出版された絵本で、2010年に完成予定（当時）の国際宇宙ステーションについて、詳しく、わかりやすく解説しています。

from Naoko Yamazaki

宇宙探検に行くロケットを子どもが作るのですが、その燃料は砂糖。ファンタジーですが、データはきちんとしていますね。こういう雰囲気の本、好きです。

『もしも宇宙でくらしたら』

作／山本 省三
1,300円（WAVE出版）

ぼくは小学生。お父さんの転勤に伴って、家族で宇宙ステーションに引っ越してきました。宇宙での一日を日記で見えてみましょう。無重力での生活の様子や、洗濯やお風呂はどうするのかなど、身近なことがわかりやすく描かれています。



『イジーとノーバートの惑星探検』

文／リチャード・プラット
絵／レオ・ハータス
監訳／宇宙開発事業団・岡村 定矩
品切れ重版未定（丸善）

イジーとノーバートと一緒に、宇宙の旅へ出発！ 砂糖で動く手づくりロケットは、太陽系をめぐる、さらには銀河のかなたへ！ 宇宙に生きものはいるの？ 写真の謎は？ 宇宙の不思議や惑星をわかりやすく紹介しています。



読み
70分

『ネクスト・アインシュタイン ようこそ研究室へ1 進化する宇宙 大発見』

監修／的川 泰宣 編／（財）日本宇宙少年団
3,200円（新日本出版社）

『ジュニア・サイエンティスト』連載の「研究室はワンダーランド」を再録・再編集。宇宙研究の最先端にいる8人の先生たちが、宇宙の謎やプラネタリウム、天文台など、ワクワクするお話を展開します。

東日本大震災から 生まれた絵本たち

被災地に
子どもの本が
できること

あまりに大きな爪痕をのこした東日本大震災。
その悲しみから一歩を踏み出すために、そして、これから生きる子どもたちに
語り継いでいくために、たくさんの作家たちが作品をつくりだしています。
震災そのものを描いた作品から、メッセージが込められた作品など、
たくさんある中でも編集部がおすすめの絵本を紹介します。

『おじいさんとヤマガラ 3月11日のあとで』

作・絵／鈴木 まもる 1,400円(小学館)

鳥が大好きなおじいさんは、毎年家のまわりに巣箱をとりつけ、ヤマガラのヒナの巣立ちを楽しみにしています。原発事故の年も、巣箱をとりつけましたが、放射能で汚染されたエサで、ヒナは無事に育つでしょうか。事故後の鳥たちの変化・回復への願いを伝えます。



『明けない夜はないから』

絵／宮城県の子どもたち・荒井 良二
言葉／「明けない夜はないから」
歌詞／新田 新一郎・たかはし あきら・渡辺 リカ
1,524円(フェリスモ出版)

「明けない夜はないから」は、3.11の震災後、被災地・宮城県で生まれた歌です。絵本というメディアを使って、子どもたちの思いを伝えようと、2012年8月にワークショップが開催され、そこで生まれた作品で構成されています。

『かあさんのこもりうた』

作／こんの ひとみ 絵／いもと ようこ 1,400円(金の星社)

お母さんはいつも下の妹ばかりに子守歌を歌ってあげていいなあと、上のお兄ちゃんとお姉ちゃんはうらやましく思っています。でも、お母さんはちゃんと、ほかのきょうだいへの感謝の気持ちも忘れてはいなかったのです。



『およくひと』

作／長谷川 集平 1,600円(解放出版社)

早くうちに帰りたい、流れて逆らって泳ぐ人がいました。遠くに逃げようとしている赤ちゃん連れの女の人もいました。でもふたりとも消えてしまいました。私たちは東日本大震災のすべてを見てきたのでしょうか？ 鋭い問いが残されます。



『いつか帰りたい ぼくのふるさと』

写真・文／大塚 敦子 1,500円(小学館)

「3.11東日本大震災」によって命を、そして故郷を失ったのは、人間たちだけではありません。ともに暮らしながら世話してくれる人を突然失った動物たちも、過酷な状況に置かれています。被災ネコの目線で語られる、写真絵本です。

『奇跡の一本松 大津波をのりこえて』

絵・文／なかだ えり 1,800円(汐文社)

東日本大震災の日、7万本ものマツが津波に流されました。その中で、たった1本のマツが津波を生きのび、「奇跡の一本松」と呼ばれて人々を励ましています。人々は知恵を出しあい、松原の命をつなぐために、いろいろと力をつくしています。



『お～い、雲よ』

著／長倉 洋海 1,600円(岩崎書店)

東日本大震災後の東北の景色や子どもたちの様子を撮り続けてきた著者は、雲がみんなに元気を与えてくれると思いました。どんなときも、どんな状況にあっても、空を見上げると、そこに雲は流れているのです。あたたかい視線が感じられる写真ばかりです。



『かぜのでんわ』

作・絵／いもと ようこ 1,400円(金の星社)

※今号の新刊100!!のコーナー(P64)に詳細掲載





この人にあれもこれも

絵本作家さん こんにちは！

おかだ ちあき

岡田 千晶さん

PROFILE

おかだ・ちあき

大阪府生まれ。セツ・モードセミナー卒業。ポロニャ国際絵本原画展2010ほか入選、入賞歴あり。子どもの繊細な表情をすくいと丁寧に描く作風が人気。展覧会情報や近況情報はホームページをチェック。<http://okada-chiaki.com/>

手ざわりを描く

小さいころからひとりで過ごすことを好み、昔ばなしや童話などファンタジーの世界を身近に感じて育ったという岡田さん。そのみずみずしい感性を今も大切にしながら、子どもたちを見つめて描く舞台裏の様子をお聞きました。

撮影／石川 正勝 取材・文／菅原 千賀子

ポッケにお菓子をしのばせて
ひとりで春を楽しんでいました

生まれたのは大阪・岸和田です。小さいころは友だちとワイワイ遊ぶよりもひとりでいることを好む子どもでした。

近所には田んぼや畑があり、あぜ道を歩くことがとても好きでした。『タンポポ見つけた』『あっちにスマイルが咲いている』と、草花を見つめに行くのが楽しくてよくひとりで散歩していました。

特に好きだったのは、早春。お気に入りの場所があったのです。そこはボカボカとあたたかくて小さな川も流れている、とってもいいところ。ポケットにお菓子をを入れて出かけるの。春の空気をかきながらそこに腰かけて、お菓子を食べるのが好きだったな。

幼稚園から小学生のころには『アタックNo.1』の漫画のようなキラキラおめめの女の子の絵などを描いていましたね。友だちの間で流行していたので私もしょっちゅう描いていました。それに、おはぎを真剣に描いたことをよく覚えています。母がこしらえてくれたおはぎです。小豆のひと粒ひと粒までじっくり見つけて鉛筆でたどり、「うん、うまく描けた！」と、満ち足りた気持ちになったことをよく覚えています。

誰でも
カンタンに
できる

おはなし会の ワザとコツ



誰にでもできるけれど、あまり知られていない

「盛り上がるおはなし会」のワザとコツを、おはなし会の達人、JRACのみなさんに聞きました。

イラスト／福井 若恵

小道具、ペープサート、パネルシアター

File #4

藤田浩子さんの
『おはなしおぼさんの小道具』（一声社）より。
ふしぎな部屋、おばあさんとブタ、新聞紙の話



ペープサート
いないいないばあ、
ワンピースの話、
ねずみの嫁入り

パネルシアター
カレーライスのうた、
あいうえ王



（谷口 和恵）

わらべ歌+小道具

File #1

わらべ歌「ずくぼんじょ」や「いないいない
ばあ」や「ととけっこーよがあげた」に
合わせて、人形を出したり引っこめたりし
て、あいさつします。（半井 美和）

手袋人形

File #2

「カラスのおやこ」の手袋人形を使って、
子カラスが「おはなしきかなきやねむれ
ない」と言い、お母さんカラスが「では始
めるよ」と言って、おはなしへ。



（松本 真裕美）

手袋人形

File #3

手袋人形を使い、「おはながわらった」「小山のこうさぎ」などを歌って始めます。

「おはながわらった」

おはながわらった おはながわらった
おはながわらった おはながわらった
みんなわらった
いちどにわらった



「小山のこうさぎ」

こんこんこやまのこうさぎは
なぜにおみみがなごこざる
おっかちゃんのぼんぼにいたときに
ながいこのはをたべたゆえ
それでおみみがなごこざる

（谷口 和恵）

part
1

思わず引き込まれる導入ワザ

おはなし会の冒頭で、子どもたちが読み手に注目し、意識を集中させてくれると
その後のおはなしもスムーズに進行できますね。